

社団法人私立大学情報教育協会

平成 22 年度 第 3 回経営学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 22 年 11 月 5 日 (金) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
- II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者: 大塚晴之委員長、佐々木利廣副委員長、岩井千明委員、日置慎治委員  
大野富彦委員  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 第 2 回委員会で宿題とされた「学士力の実現を目指す ICT 活用授業の開発モデル例示」について各委員より以下の案が提示された。これは、次の 4 つの到達目標に対応する効果的な授業の開発モデルを 2～3 例作成するものである。

【到達目標 1】企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。

【到達目標 2】企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。

【到達目標 3】経営理論に基づき現実の組織行動を論理・実証的に捉えることができる。

【到達目標 4】企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。

- 到達目標 1 の開発モデル案について、まず、社会的責任に関する過去の実例を文献やインターネット等で調査したうえで、実際に現場の方とのコミュニケーションを通じて学生が深く考え議論する案が提示された。
- これに対して次のような議論があった。開発モデルでは、このように行わないと社会的責任の能力が身に付かないというインパクト、つまり、視点を明確にして欲しい。こういう工夫をしているという特徴を明確にしたい。はわれわれ(私情協)が求めているのは、今すぐ実行できる授業の開発モデルではなく、5 年先に ICT を使って実行できるモデルである。社会的責任でいえば、価値観教育をどう形成するかという点が重要だと思われる。たとえば、教養教育と専門教育との融合という視点も考えられるのではないか。
- 当事者意識を持たせるという視点で、学生に意見を言ってもらおうという案を提示する。企業ドラマのビデオたとえば、「鉄の骨」ーを見てツイッターなどで意見を言ってもらおうことが考えられる。ポイントは、「ハーバード白熱教室」のように実際にできるかであるが、少なくともゼミ形式であれば可能だと思う。コーディネーター(教員)の力が必要なので、複数で対応するなど教員側も連携して学びあうことが考えられるのではないか。
- 多様な価値観を認めながら自らの意見を他者に説明することができる、という視点で、

ケースを使った授業の開発モデルを説明する。ケース集（危機マネジメント研究会編『実践危機マネジメント：理論・戦略・ケーススタディ』、齋藤憲監修『企業不祥事事典ケーススタディ 150』）などから1つのケースを選択し、学生が、教員の用意する問題解決の代替案から1つを投票し、投票した人がグループを形成しディスカッションするものである。

- これまで提案があった3つともそれぞれ個性があっていると思う。これら3つを組み合わせた案ができないだろうか。また、5年先の開発モデルと仮定した場合、大学間のコンテストというかたちをとれないだろうか。共同型の学び、つまり、学生のグループだけではなくて、大学グループという視点もとれればと思う。
  - ケースを活用した案とビデオを活用した案の考え方は近い。到達目標1の開発モデル案については、このケースを用いた内容を基本とし、それに他の数名の先生案を取り入れた内容にしたらどうだろうか。
  - もうひとつ、ビジネスゲームを用いた案がある。これは、到達目標2と到達目標3に対応した内容である。
  - このビジネスゲームについて、工夫点・差別化できるものは何か。→起業提案会（ビジネスゲームを行なったグループ単位で事業計画を作成・報告）を行なうことである。
  - 大学連携でできないだろうか。また、クラウドで対応するなどしてネット上で使えるものにできないだろうか。そのような授業の開発モデルが考えられるだろう。
2. 以上の議論を踏まえて、授業の開発モデルについて以下の結論に至った。
- **【到達目標1】**は、ケースを用いた内容を基本に、それに他の数名の先生案を取り入れた内容とする。
  - **【到達目標2】**と**【到達目標3】**は統合する方向とし、ビジネスゲームを取り入れた内容とする。
  - したがって、効果的な授業の開発モデルを2例作成する。

#### V. 今後の予定

- 11月末を目途に上記の効果的な授業の開発モデル2例を作成し、協会に提出する。
- その後、メーリングリスト上で議論を行ない、12月10日をめどに中間まとめとする。
- 次回、第4回委員会は、事務局よりメールにて日程を調整する。